



曳舟幼稚園だより — 7月号 —

令和4年6月30日
墨田区立曳舟幼稚園
園長 吉岡 大司

自然と関わる活動の充実

副園長 小嶋 直美

梅雨明けを思わせるような天候が続いています。暑い日の園庭のプールでは、水しぶきとともに子供たちの元気な声が響いています。

本園では教育目標を具現化する一つとして「自然と関わる活動の充実」にも力を入れ、幼児期にふさわしい指導を展開しているところです。栽培活動においては、ピーマン・キュウリ・トマト・オクラ・ナス等の夏野菜をグループで苗から栽培し、サツマイモは苗を土嚢袋や花壇に地植えし、エダマメは個人用の植木鉢に種から育てる等、様々な種類や形態で活動を進めています。毎年この6月には、身近な食生活の具材としての米栽培も取り入れ、南秋田郡大潟村より区内の公立幼稚園が合同で稲の苗を送っていただいています。子供たちはバケツをつかって苗床の準備を行い、田植えをし、秋の収穫に向けて栽培をしています。他にも常時定植されているものはもちろんのこと、ゴーヤ、メロン、アサガオ等があります。多くの植物の栽培を通し、「様々な種類があること」「各々の特徴を知ること」「実りの時期や旬があること」「食に関わる体験」「気付き不思議だと感じる体験」「遊びに生かす体験」等、多様な形態や内容を通して子供たちの心や経験を豊かにするという教育的意図があります。

他にも年長組になるとクサガメやカブトムシを学級の飼育物として代々引継ぎ、世話をしています。時には園外から持ち込んだ自然物に意図的に出合わせる機会をつくることもあります。5月にはアゲハチョウの飼育を学級で始めました。子供たちは、幼虫が脱皮を繰り返しながら大きくなっていく様子、柑橘系の葉を食べる生き物であること、フンの大きさも成長とともに変化すること等を間近に見て、小さな虫にも命があることを感じ、気付きや変化を友達や保護者とともに共有していきました。6月中旬、蛹になっていたチョウが羽化をむかえました。羽化はチョウにとって鳥などに狙われやすいとても危険な時なので、朝早くすばやく行われることが多いとされています。幸運なことにチョウが教育活動中に羽化を始めたことで、目の前で変化していく様子を見ることが叶いました。また、カブトムシにおいては蛹化を経て、羽化の機会を偶然にも土曜保育の日に親子で体験を共有することもできました。生命の神秘や美しさ、不思議さ、困難さにも出会えたことは、子供たちの情操や体験を豊かにしていることでしょう。

7月の登園日数は12日です。幼児の更なる成長をめざし、活動をさらに充実させ夏休みをむかえられるようにしていきます。



下記のQRコードより幼稚園のホームページをご覧ください

